

花粉症と風媒花のお話

東京都では2/10ごろからスギ花粉の飛散がはじまったそうです。今年は飛散期間も長く、飛散量も過去10年の平均と比べてかなり多そう、という予想が出ていますね。幸いなことにあん Do は花粉症持ちではないのですが、この時期はマスクをしていても辛そうな人を見かけることも多く、気の毒に思います。今回は、花粉症に関連して、中学受験の理科にも直接関係のあるお話をしようと思います。

ティープロでは5、6年で詳しく学習しますが、花粉症の原因となる花粉は、スギ、ブタクサなど、主に風によっておしべ（お花）からめしべ（め花）に運ばれる花粉です。マツ、スギ、イチョウなどの裸子植物はほとんどがこの形をとっており、被子植物ではイネ、トウモロコシ、エノコログサに代表されるイネ科の植物などがこの形をとっています。

風に花粉を運んでもらう花を風媒花^{ふうばいか}と言い、花粉が風に飛ばされやすいように「花びらやがくが小さい（無い）」「花粉が軽く、さらさらしている」などの特徴を持ちます。種類によっては、花粉に空気袋がついているものもあります。



マツの花（茶色い部分がお花、先端の紫がかった部分がめ花）

花粉を運ぶものとしては、風のほかに昆虫が大きな役割をはたしています。被子植物では昆虫に花粉を運んでもらう花（虫媒花^{ちゅうばいか}）が多く、昆虫をひきつけるために目立つ色の花びらをもっていたり、花の中に甘い蜜^{みつ}をためていたりします。このような進化は、花粉を運ぶ昆虫の進化と同時に進んだと考えられています。お互いに得をするように進化した方が有利だったということですね。

これに関連して中学受験でミスのもとになりやすい植物としてはタンポポがあげられます。「タンポポは何媒花ですか？」ときかされると

「風媒花！」

と答えてしまう人が多いんです。これは、タンポポの種子が、綿毛にのって風に飛ばされていくイメージが強いからだと思えます。しかし、何媒花ですか？ときかかれているということは、花粉を運ぶのは何か？ということなので、この問題の正解は「虫媒花」です。よく考えると、黄色くて目立つ花をさかせていますよね。5年生で理科を受講したら必ずききますので、覚えておいてくださいね。



風にとばされるタンポポの種子

23/2/16 (タンポポコーヒーにも興味がある) あん Do